トップニュース

「守っていきたい こころの風景」

視聴者からの手紙を元に俳優の火野正平さんが自転車で日本全国を巡るNHK番組「にっぽん縦断 こころの旅」。昨年末に放送された1055日目の目的地は、宮崎県小林市の永久井野かくれ念仏洞だった。念仏禁制時代の「かくれ念仏」の遺構が今も残る南九州。しかし、かくれて信仰していたからか、地元でもその存在を知る人は多くないという。永久井野かくれ念仏洞と熊本県湯前町のかくれ念仏の里を訪ね、先人の篤い思いを受け継ぎ、次代に伝えたいと語る門徒を取材した。

「かくれ念仏」の里を訪ねて

かくれ念仏洞　宮崎県小林市

「ずっと守っていきたい場所。こころの風景です」と番組に手紙を出したのは同市・浄信寺門徒の坂下まち子さん(68)。永久井野地区に生まれ、父の永峰景俊さん(平成16年に88歳で亡くなる)が洞の護持に深く関わったが、自らは洞に入ったことはなかったという。番組への手紙を書くことをきっかけに初めて中に入り、その思いをつづった。番組では、その手紙を読んだ火野さんが洞を訪ね、かくれ念仏を継承してきた人々の思いを紹介した。

5月下旬、坂下さんと、洞の保存会代表の藤岡信了さん(88、同寺副住職)とともに洞を訪ねた。

市中心部にある浄信寺から車で10数分。公道から脇道に入りしばらくして車を止めた。そこからは歩いて沢伝いの舗装された道を数百メートル進む。保存会が舗装するまでは藪だったという。

かくれ念仏洞は、30万年前の火山噴火の溶岩が固まった天然の洞窟。昼間でも外の光は差さない。念仏禁制の時代、集落の人は〝ウサギ道〟と呼ばれるけものの道を通り、最後尾は足跡を消して夜な夜な集った。女性が腹巻の下にかくして持ってきたご本尊を安置し、お念仏を称え、素性を隠した僧侶などからみ教えを聞いた。近くに川があるのも、せせらぎで念仏の声がかき消される場所を選んだためといわれる。

藤岡さんによると、洞はお念仏を喜ぶ場でありながら、種もみや収穫物などを交換する交流の場でもあった。「人々の暮らしは厳しく、身分の違いなく等しく救われる浄土往生の道を説くお念仏の信仰は、まさに心の依りどころだったに違いない」と話す。

洞は先祖代々、「誰にも言うなよ、語るなよ」と家族や隣近所にも口外を堅く禁じた秘密の場所だった。坂下さんは「この沢は子どもの頃の遊び場だったが、大人になるまで念仏洞の存在は知らなかった。年の離れた兄たちは父から聞いたことがあるようだが、私は聞いていない」と語る。

平成の初め、父・景俊さんら4人が中心になって洞を公にした。先人の歩みを知る人が減り、ひそかに守り伝えてきた歴史が途絶えかねないとの危惧からだ。藤岡さんでさえ洞の存在を知ったのはごく最近の時だった。「驚きと同時に、禁制が解けてなお100年以上も秘密を守り続けてきた人々の思いに心を打たれた」という。

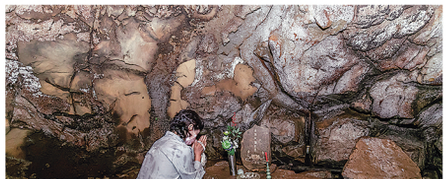
「こころの風景」の番組は3年前にも小林市を訪問。昨年、再び同市を訪問することを知った坂下さんは「今度は自分で手紙を書いてみよう」と思い立った。テーマである「こころの風景」を思い浮かべた時、真っ先に胸に去来したのが、景俊さんが大切にした洞だった。初めて中に入ってみた。「たった一人で少し心細かったが、入ってみると何ともいえない感情がこみ上げてきて、自然と手が合わさっていた」と話す。

手紙には、景俊さんから「今日は念仏洞の清掃だった」「花植えに行ってきた」と聞いても、子育てに追われて気にも留めなかったエピソードとともに、「あの時、父が話していた時、どうして一緒に行かなかったのかなと、今心残りでなりません」とつづった。

放送を受けて今年、洞を訪れる人は急増した。坂下さんは「洞の秘密を守り続けてきたご先祖の行いとは相反するかもしれないけど」としつつ、「命がけでお念仏を守り抜いてこられたご苦労を少しでも次の代に伝えられたのなら、その思いに報いることができたのかなとも思う」と穏やかな笑みを浮かべた。

宮崎県小林市の永久井野かくれ念仏洞。右中央部の入り口はふさがれており、寝そべってしか入れなかったという

NHKの番組に手紙を出した坂下まち子さん



洞の内部は50人ほどが入れるほどの広さ。現在は洞の保存会が「南無阿弥陀仏」を刻んだ石版を安置している

かくれ念仏…江戸時代に浄土真宗が禁止された地域において、かくれて念仏の教えが護持されたこと。伝統的政策として禁教が行われた薩摩藩などの領内に見られ、表面上は他宗派への帰依を装い、秘密裏に講が組織された。

かくし仏間　熊本県湯前町

「仏間だけはこのまま」

「ご門徒宅に『かくれ念仏』が残る珍しい仏間がある」と熊本県湯前町・明導寺の藤岡教顕住職(48)から聞き、同町北地区の渋谷憲裕さん(75)、晶子さん(70)宅を訪ねた。

仏間には、2つの仏壇が並ぶ(写真)。左側の大きな仏壇は押し入れに納めたようなつくり。右奥の仏壇は、やや小ぶりで軍鶏に掘え付けたようだ。

藤岡住職は「左の仏壇の前には元々二重のふすまが付いていて、閉じれば押し入れに見せかけられる仕掛け。かくれ念仏の時代は、普段は左の仏壇のふすまを閉め、右の仏壇に他宗のご本尊を安置し、それにお参りしているかのように見せかけ、仏壇の上には神棚まで置いた。この部屋は二畳、浄土真宗とわからないように偽装した『かくし仏間』」と説明する。

さらに仏壇の横には縁側に通じる秘密の通路があり、役人が見回りに来ると「ご門徒宅に『かくれ念仏』が残る珍しい仏間がある」と熊本県湯前町・明導寺の藤岡教顕住職(48)から聞き、同町北地区の渋谷憲裕さん(75)、晶子さん(70)宅を訪ねた。

仏間には、2つの仏壇が並ぶ(写真)。左側の大きな仏壇は押し入れに納めたようなつくり。右奥の仏壇は、やや小ぶりで軍鶏に掘え付けたようだ。

藤岡住職は「左の仏壇の前には元々二重のふすまが付いていて、閉じれば押し入れに見せかけられる仕掛け。かくれ念仏の時代は、普段は左の仏壇のふすまを閉め、右の仏壇に他宗のご本尊を安置し、それにお参りしているかのように見せかけ、仏壇の上には神棚まで置いた。この部屋は二畳、浄土真宗とわからないように偽装した『かくし仏間』」と説明する。

さらに仏壇の横には縁側に通じる秘密の通路があり、役人が見回りに来ると、ここから同行を逃がしたという。渋谷さんは「他言無用だったからか、通路のことは知っていたが、仏壇が並んでいる意味は父や祖父から聞いていなかった。お寺さんに聞いて初めて知ったことも多い」という。

その言葉を継ぐように藤岡住職が語る。「父が祖父から伝え聞いた話では、念仏禁制の時代、私の先祖は薬売りや油売りに姿を変えて人目を忍んで集まっていたという。集まりのある日は法衣を吹いて知らせ、村人はたとえ近所同士でも顔や身元がわからないように女装や男装をして集まった。役人が来れば『牛が逃げたぞ』と叫んで注意を引き、逃げるすきを作ったと伝わる。見つかれば、厳しい拷問が待っていたはず。まさに命がけでみ教えを聞いてきたのだと思う。それは尊げられた歴史でもあり、禁制が解けても公言できなかったのだろう」。

さらに藤岡住職は「かつて、ある所で『声高らかにお念仏申しましょう』と促したところ、『ご先祖が声を殺してお念仏を守ってきたのに、それはけはかられる』とおっしゃった方がおられた。そういう思いを背負って、私たちはお念仏をいただいている」と語った。

渋谷さんは「ばかばかしいながら、こうして住職に教わるまで、この仏間にそれほど強い関心はなかった。でも、大変な苦労をしながらここで手を合わせた先人の姿を思うと、この歴史を若い世代に伝えるのが私たちの役目だと思うようになった」と話す。晶子さんは「子どもたちには家をリフォームすることがあっても、この仏間だけはこのまま残して伝えたい」と真剣なまなざしで話した。

本願寺新報
hongwanji journal
6月20日(月曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代)／FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術
剛 金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように
一、おごらず、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように
一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光 白光

大阪で下宿生活を送っていた大学時代、昼食は大学の生協食堂だったが、夜は下宿近くの定食屋によく通った。その店は、50歳くらいの「おばちゃん」が切り盛りしており、私と同じように地方から出てきた大学生で繁盛していた。

▼肉や魚の主菜、サラダ、目玉焼きなどの副菜、熱々の白米が一つの皿に盛られた定食。メニューはそう多くなく、毎日食べていると飽きがきそうなものだが、夜になると自然とこの店に足が向いた。ほかの学生らも同じで、そのうちに「同じ釜の飯」を食べた縁で何人かの学生らと友達になった。

▼卒業後、その友人たちと会う機会があり、「どうしてあの店によく通ったのか」で盛り上がった。学生相手の食堂で、「おいしく」「安く」「おなかいっぱいになる」が売りで、懐の寂しい下宿生にはこれはありがたかった。だが、やはり一番の魅力は「あのおばちゃん」ということで意見が一致した。「おかえり」とおばちゃんは私たちを迎えてくれた。そして、私たちの会話にそっと耳を傾け、悩みや問題を抱えていそうな学生には、人生の先輩としてそれとなく助言や励ましの言葉をかけてくれた。

▼「居心地がよかった」。1人がこう言った。1人暮らしの学生らにとり、「家」のような存在だったのかもしれない。各地で「寺院を人々の居場所に」という取り組みが進められている。場所の提供はもちろんだが、「居心地のよさ」が大切に思う。懐かしいあの店とおばちゃんの「おかえり」が思い浮かぶ。

親鸞聖人御誕生 850 立教開宗
ご縁を慶び、お念仏とともに

福岡支局 〒812―0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円)　定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171
宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

法藏館
http://www.hozokan.co.jp
新刊
法然・親鸞にいたる浄土教思想 ― 利他行としての往生 ― 小谷信千代著 親鸞の往生思想の主眼は、往生することではなく、浄土教での往生思想の展開を多角的に考察し、衆生救済の思想への正確な理解に迫る。四一八〇円
梅原猛と仏教の思想 菅原 潤著 ロマンに満ち溢れ、多くの文化人を魅了してきた梅原日本学、その展開した仏教はいかなる思想を与えたのか。待望の本格的思想論！ 一、九八〇円
梅原猛 仏教の思想 法然・親鸞 浄土教思想
総合書店！
親鸞 左訓・字訓・語訓辞典 田代俊孝著 親鸞聖人自身の言葉による真宗用語辞典が誕生！ 親鸞聖人の著書の中に記された語註や用語説明を念に集めた、初めての辞典。 三一五四円
ひとりふたり・お盆を迎える 〈季刊誌〉 ひとりふたり・ 三六円 毎号最上の「講」を一冊一〇四円(税別)
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

ライブ感溢れる絵解き法話と ギター法話、人気上昇DVD!!
推薦DVD『二河白道』大好評!!発売中!!
萬徳寺蔵の「二河白道図」三幅の その教えについて詳しく絵解きする。
浄土真宗本願寺派 萬徳寺 杏名奈都子 口演
広野をゆく旅人が、恐ろしい盗賊や獣に襲われながらも、水の河と火の河の中間にのびる白い道を進み、西の岸にたどりつく――
収録：1時間9分／真宗大谷派集会所 定価5,500円(税込)
推薦DVD『ギター法話』シリーズ①②③ DVDBOX
浄土真宗本願寺派 浄願寺 小泉 信了 口演
お寺の本堂での法話・第①巻、コンサートホールでの法話・第②巻、学校での法話・第③巻の3タイプの会場で行われたギター法話をセットにして販売！
①ハッピーバースデーいのち！ 収録：1時間9分
②ありがとう 母さんいのちは生きる 収録：1時間9分
③但馬守・中先人のいのちは生きる 収録：1時間9分
DVD全3巻組 定価4,950円(税込)
方丈堂出版 https://hojodo.jp/　フリーダイヤル 0120-557-750　京都市伏見区日野不動講町38-25

探究社 https://www.tankyusha.co.jp
お寺と家庭をつなぐ法話の便り
お盆 よろこび
執筆者 前田 壽雄　斯波 徹真　浄土真宗の風景　三上 章道　秋山 和信　近松 真定　伝記とお念仏
令和5（2023）年版ほのぼのカレンダーを鋭意製作中です。故東井義雄先生のお言葉を標語とし、例年通り、寺田みのる先生にお願いしました。また、毎月の絵は寺田みのる先生にお願いしました。また、文字とのなじみを深めるため、お寺さまにはお出来上がりは7月下旬頃の予定です。価格は一部150円(税込)となっております。本年もぜひ弊社でお買いあめください。
～ご予約承り中～
〒520-0027 大津市錦織2丁目9-30-101　TEL 077(599)4201　FAX 077(599)4220　[e-mail] post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

近刊
真宗伝道学研究序説 深川宣暢著 定価2,640円(税込)
義の上に伝道学を位置づけることで体系化し、伝道の現場での様々な問題解決に役立つ基礎を学ぶ一冊。
学佛 ―仏の大悲心を学ぶ― 直林不退著 定価1,650円(税込)
著者がこれまで各所に発表した随想類の中から、「大法輪」収録のエッセーと「桐生タイムス」に連載したコラム記事のみを選び、加筆修正し一冊にまとめたもの。日本仏教と浄土真宗の歴史を解説し、今そして次の世代へ伝えたい思いを綴る。
命輝く真宗の肝要に触れる 北村文雄著 定価1,100円(税込)
真宗の教えを、できるだけ平易な表現で総合的に解説した手引書。主な内容として、「真宗における行・信」「七高僧の教義概観」「真宗別伝・真意を尋ねて」など。
永田文昌堂 600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031